

課程博士論文審査委員会報告書

委員長 教授 森 美智代

I. 学位請求論文名

「公正価値会計の勘定理論からの探究－資本等式の現代的意義とその計算構造の論理－」

II. 学籍番号・氏名 0885002 佐藤 俊哉

III. 論文の概要

バブル経済崩壊後の新会計基準の制度整備に際して、取得原価主義から時価主義会計の会計制度変革にあたり、公正価値会計の評価が市場価値における株価による統計学的な研究が多いなかで、本論文は会計の基礎に立ち戻り、計算技術である複式簿記と勘定理論の観点から公正価値会計を考察する研究である。

IV. 審査の結果

本論文は先行研究の文献を網羅的に渉猟して、勘定学説による公正価値の検証に真摯に取り組む姿勢がみられる。また新しい理論研究を論じているわけではないが、複式簿記の勘定論を意味論及び記号論という哲学的な論理に立って、先行研究の学説を前提に設例を示して検証している点において、独創的な研究成果を感じ取ることができる。

本論文の内容が、「博士(アドミニストレーション)の学位授与の基準」(平成 13 年 12 月 13 日研究科委員会設定)を満たしているかについて審査した。その結果、以下のとおりである。

1. 「外部評価に耐えうるような水準の学位論文でなければならない」こと。

本論文は、わが国の学界において十分に研究されていない公正価値会計を勘定理論から探究する研究であり、勘定学説の文献を網羅的に渉猟し、計算技術的な設例を示して、公正価値会計を検証している。株価数値の統計学的研究には足りない、勘定学説による公正価値会計の検証は、外部評価に耐えることができると判断する。

2. 「学位論文の分量は、120,000 字以上」であること。

本論文は 200,003 字以上 [1 頁 : 1,280 字×230 頁] に及び、論文の分量は十分であると判断する。

3. 「原則として、1 ヶ国語以上の外国語文献(原典)を参照しなければならない」こと。

本論文では、日本語及び英語文献を参照して論述している。

4. 「学界への寄与、研究の新奇性及び独創性があることが望ましい」こと。

本論文は、以下の 3 点において、学界に少なからぬ新知見を与えたと考える。

①会計理論学会第 29 回全国大会で博士論文の内容を報告し、学会のコメントを織り込み、また全国学会報告後も原稿を推敲して完成させていること。

②勘定学説の研究を専門分野とする研究者の指導を受けていること。

③博士課程における論文執筆に際して、九州会計研究会で報告をかさねて、研究を遂行した研究結果であること。

以上のことから、本審査委員会は、本論文は学位申請論文に相応しいものと判断した。